

Rodoku News

朗読ニュース

2016年
夏号

設立15周年記念公演「朗読の日2016」

出演者舞台写真(総勢95名)



「朗読の日2016」を終えて



「朗読の日2016」
実行委員長
松島 邦

2001年に設立されたNPO日本朗読文化協会15周年記念「朗読の日2016～朗読 de 楽しむ名作選～」公演(実質開催14回目)も無事、盛会裡に終り、早や2か月がたとうとしています。

皆様、お疲れ様でございました。多大なるご協力を心から感謝申し上げます。有難うございました。

お客様からは、テーマとなった近代文学を中心にしたので、知っている作品がいくつも聞けて面白く楽しく聞けた。朗読の技量が以前よりも上がって、聞き応えがあった。舞台装置が非常に効果的で照明も映えた等の嬉しい反響がありました。私個人としては第1回からの参加で、読むこと・裏のお手伝い等確かな15年の“朗読自分史”だと思いました。

今回私は実行委員長を依頼され、一年間携わってまいりました。委員長の役目としてお役にたったのかどうか…? 当初は仕事の全体が見えずにいましたが、事務局・実行委員のメンバーが手順を熟知していて、停滞せずに進行し、月1回、10人の実行委員会で問題点の検討を重ねました。累計110名に及ぶ出演者。入場者実数1,182名。収支も赤字なしのとんととの発表。怪我人等もなく無事終了できたことが、委員長としては平凡ながら喜ぶべき事だったと思います。それに新旧の会員が配置している会場全体が、和気藹々、明るい雰囲気で見られていたことが印象に残っています。

今回幾つかの改革点・注目点がありました。初回出演の方は別としてお気づきでしたか?

- ①テーマを近代文学に焦点をあて、著名な作品を各ステージにちりばめたこと。
- ②チケット代を2500円に値下げ。
- ③プログラムの無料配布。
- ④出演料の見直しと再設定(2分30秒毎の区分け)
- ⑤整理券廃止。お客様がロビーに入場できる時間を決め道路からの誘導等で、混雑緩和策を取ったこと。
- ⑥ロビーでの打上げを乾杯のみとし短縮化、中央テーブルでの飲食提供をやめる。
- ⑦その分二次会への参加を誘い、会員間の交流を図る。…今回は同ビルのレストランに予約できました。反省点も多々ありました。なかでも

- ①2日間で5ステージはきついのでは。
- ②個々の朗読時間が延びて終演時間が、30分延長したこと。過去に、終演時間が延びて、お客様からのクレームになった年もありましたので、次回、作品選択の際は十分な時間の計算が必要だと思いました。然し一方で、4回に渡る演出との「本読み」によって、朗読の力が着実に上がり、作品が次第に面白くなっていくプロセスがよく分かりました。

他にも来年に活かすべく、皆様からのお気づきの点は事務局へお送りください。実行委員は各部署を担当し、委員会で決めながら動きやすくなっています。来年の「朗読の日2017」はあなたのお手を貸してください。ご参加を祈っております。より充実した、又お客様に喜ばれる「朗読の日」にしたいものです。



「朗読の日2016」
演出
飯田輝雄

初めて見に来た方が「朗読ってこんなに楽しいものなんですね」…久しぶりに見に来た方が「昔に比べて随分みんな上手くなったね。ステージが充実したね」…こんな言葉をかけてもらいました。とても嬉しく思いました。

ステージの流れの中に朗読の王道“近代文学の名作”が散りばめられていたのが良かったのではと思っています。(こうした作品を選んでくれた方に感謝です。有難うございました)

“読み手”が作り上げる作品の世界を楽しむ! 楽しませる!…そんな公演がこれからもより充実して続けられればと思っています。



ギターの池田宏里氏。



琴の安藤政輝氏。



『瞼の母』の二人。



『二十億光年の孤独』の三人。



『御伽草子カチカチ山』の三人。



『吾輩は猫である』の三人。



アイリッシュハーブの
田中淳子氏。

2016
6/18・6/19



グランドフィナーレ。



馬頭琴のバータルジャブ・
ホルダーエルテネ氏。



ロビーで打ち上げの乾杯!



日野原重明 & 加賀美幸子 講演会「想いを伝える ことばの心 ことばの力」より

NPO日本朗読文化協会の皆様へ

全国から引っ張りだこの日本を代表する104歳の日野原先生の言葉への思い、貴重なご講演、そして加賀美の言葉への思い、生き方、そして詩の朗読…

今回は、勿論会場800人の皆様への講演ではありますが、当方がNPO日本朗読文化協会の皆様への気持でありました。もし会場にご参加されたならその根元がお分かりいただけたはずです。

今回はただの講演会でもなく、朗読会でもなく、ライフプランニングセンター主催、ボランティアの会でもありますので、だれもが参加しやすい低廉な入場料でもありました。協会からは、何人かの方がご参加下さいました。有難うございました。

そして、日野原先生がそのときの加賀美の朗読と言葉への思いを新聞のエッセイに書いてくださいましたこと、無上の喜びです。

日野原先生のお話をじかに伺う機会など、めったにない貴重な記念講演会、そこに当方が呼ばれて講演し朗読させていただけることも稀有な機会でありました。

多分金輪際ないと思っておりましたが、(実はその後ちひろ美術館にて再び先生とのコラボの機会を頂き、更に今後対談の企画も計画されています)

先生の生き方の力と先生の詩の心をつめ、又その様子を皆様にお伝えできればと思っております。



朝日新聞デジタル 日野原重明さんコラム一覧より

私が理事長を務めるライフ・プランニング・センターの設立43周年記念の催しが5月下旬、東京の笹川記念会館でありました。元NHKアナウンサーの加賀美幸子さんを迎え、私は「想いを伝える言葉」と題し、私の人生と言葉との長い関わり合いについて講演しました。

ロゴスというギリシャ語は、キリスト教では神の言葉、キリストの言葉を意味するとされ、ヨハネによる福音書の第1章第1節には「初めに言葉(ロゴス)があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった」と記されています。私の父は牧師で、私たち6人兄妹は、家族が顔をそろえる朝食時、聖書を輪読していました。私が小学1年生の時にはふり仮名つきの聖書を読めましたが、一つ年上の姉は読むことができず、私とえば得意満面でした。ところが小学校で赤面恐怖症になったので、関西学院中学部では弁論部に入学し、自分を鍛えました。弁論部の部長は漢文の先生で、文学や詩にも関心を持ちました。ガリ版刷りの同人誌や詩集を作り、京都の第三高等学校では理科のコースを専攻しながら、哲学者カール・ヒルティの研究、ドイツ文学のリルケの講義にも接しました。

ソクラテスの言葉の通り、医師もまた、言葉を用いる職業です。私も医師になってからは、患者さんの、言葉にならない言葉をくみ取ることの重要性を理解し体得していきました。私が尊敬するウィリアム・オスラー博士も言葉を大切にしました。逸話によれば、オスラー博士は白血病末期の少女のベッドサイドで一緒に人形で遊び、美しいバラの花もいつかは枯れるように、すべてのものに死が訪れる、と優しく少女に語りかけた、と言われます。

加賀美幸子さんは「ことばの心 ことばの力」と題した感動的な講演で、「言葉とは自分を励ますためのもの」と語って下さいました。そして最後には聖路加フィルハーモニック・オーケストラの演奏をバックに、4月末に出版された私の詩といわさきちひろさんの絵が共演する詩画集『しかえししないよ』(朝日新聞出版)を朗読して下さいました。加賀美さんの静かな、強い思いのこもった声と語り口は、世界の平和を願う私の詩の精神を、会場にいらした人々の胸の奥の奥にまで、届けて下さったことでしょう。

(聖路加国際病院名誉院長)

当日参加した受講生お二人の声

冒頭、司会者が加賀美先生をご紹介されました。800名の聴衆の前でNPO日本朗読文化協会名誉会長と大きくアナウンスされ、ハッとさせられました。先生は心念をもって当協会のことをお引き受けくださり、そして大切に思っていてくださっている、と。これに対し私達は十分に応えているだろうか、責任があるのではないかと思いました。勿論、日頃から切磋琢磨し励んでいます、そう思ったのです。

『心を伝える。ことばの力。今を見つめるために古典を学ぶ。』改めて学ばせて戴いていることに感謝し誇りを感じました。(小黒三重子)

加賀美先生の「ことばの心 ことばの力」では、「しかえししないよ」から、何編か読まれました。

日野原先生の言葉があつての、朗読は、「優しい言葉の中に、戦争の悲惨さ、深い悲しみ、戦争は断固拒否しなくてはいけないことなのです!」というお二人の気持ちが強く伝わって来るものでした。近代史で習っていた中也の「サーカス」石垣りん「崖」が浮かびました。

講座では聞けない古典文学のアンソロジーを紹介されました。悠久の時を経て今がある事を、今ある幸せを広い会場で感じ、温かい気持ちで会場を後にしました。

(添川江利子)

藍の会による朗読会「伊藤左千夫の人と作品をたずねる」



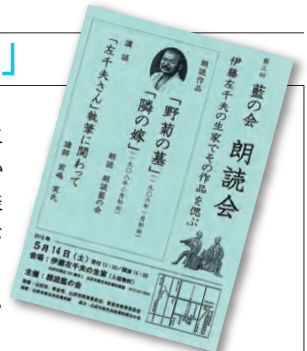
私ども「藍の会」(千葉県東金市で平成23年発足、現会員10名)は、平成26年秋に、伊藤左千夫生誕150年に際し、朗読会「伊藤左千夫の人と作品をたずねる」を実施しました。伊藤左千夫(以下、左千夫と呼ぶ)の幾つかの作品に触れる中で、様々な発見があり、もっと読んでみたい、もっと多くの人々に左千夫の素晴らしさをお伝えしたいと思うようになりました。

そこで、今年は左千夫の生家(千葉県山武市)をお借りし、2016年5月14日に「伊藤左千夫の生家でその作品を偲ぶ」というタイトル

で、朗読会を開催しました。左千夫の生家で、左千夫の作品に親しみ、偲ぶという臨場感あふれる空間を、参加者の皆様と共有することで、さらなる交流の輪が広がったものと確信しています。

なお、この朗読会は、北海道新聞社からの取材申し入れがあり、6月12日の日曜版に掲載されました。経緯は、北海道新聞社が、今年「本と旅をする」というテーマで、著名な作家の作品が誕生した歴史的・地勢的背景について取材しており、5月は「野菊の墓」を企画しているため、山武市歴史民俗資料館に問合せたところ、私どもの朗読の「野菊の墓」他と講演会もあることを聞き、早速の取材依頼となりました。当日会場は、記者やカメラマンの動きで、これまでにない緊張感に包まれ、来場者の方々からも「生家での朗読会に参加して、今までにない感動と喜びに包まれ心豊かになった。次回の朗読会を楽しみにしている。」との声が寄せられた。

(「藍の会」代表 小泉幸子)



第96回 八重洲朗読会

2016年 5月 八重洲朗読会

【第96回】

- | | | |
|--------|----------------------|-------|
| 二人のバッハ | 森 忠明 作 | 秋山 雅子 |
| 小ぬか雨 | 「橋ものがたり」より
藤沢周平 作 | 安田 綾子 |
| とびこみ | トルストイ 作
宮川やすえ 訳 | 黒川 公代 |
| 女主人 | ロアルド・ダール 作
開高 健 訳 | 蒔村三枝子 |

※ プログラムは変更になることがあります。

- ◆ 日時 : 5月28日(土) 16:00~17:30 (開場 15:30)
- ◆ 会場 : 八重洲ブックセンター本店8階ギャラリー
JR 東京都八重洲南口/東京メトロ有明線「京橋駅」7番出口(明治館出口)
TEL: 03-3281-1811 (代) 東京都中央区八重洲 2-5-1



第20回 ヒルズ・サロン朗読会

ヒルズ・サロン 朗読会

The 20th stage

*今回は定員30名の開催を予定しております。

■白事のお慶・メニューでキレイに...
■美味しいお菓子とお茶のブレイクタイム
■楽しんで心のビギラン(感謝)ちよっとオシャレな朗読会です。

日時 / 2016年5月13日(金) 14:00 ~ 16:00 (開場 13:30)
会場 / 六本木ヒルズ・ハリウッドビューティプラザ4F

プログラム

- ◆ 美・メニュー / **メイ牛山式生涯現役 四季の美容**
好評につき再登場! "あなたのお肌の悩み・水分保水チェック。大事なお肌を守りましょう!"
- ◆ 朗読タイム / 舞台は江戸時代。隆盛を享へた心の軌跡をお話いたします。ひとつは、京都の越前屋の昔話の自傳の軌跡の花が綴りなす人間模様...、ひとつは、父に業て京に上った娘が毎日の幸せに気づく...。共に、江戸時代に咲いた花と雨降を背景に、幸せの未来が見えてきます。
◆ 美味しい季節のお菓子とお茶を御相伴に、お寛ぎくださいませ。

○ 「重畳の蔭」 『花間』より 澤田 るじ子 作	川口 和代 (Kawaguchi Kazumi) NPO 日本現代文化協会 会長
○ 「桐畑に雨のふる日」 文藝春秋 日経社内刊 月刊 監修 尾形江戸 著(著) 藤沢周平 作	市原タツ子 (Ichihara Tatsuko) NPO 日本現代文化協会 会長



1. 日時／平成28年6月30日(木) 13:00～13:40
2. 場所／〒107-0052 東京都港区赤坂4-18-13
赤坂コミュニティーぶらざ3F
赤坂区民センター4F第一会議室
3. 正会員総数／126
4. 出席者数／83(内訳：当日出席者16名、委任状67名)
5. 審議事項
 - (1) 議長選出の件
 - (2) 議事録署名人選出の件
 - (3) 役員退任の件
 - (4) 2015(平成27)年度事業報告並びに収支決算書承認の件
 - (5) 2016(平成28)年度事業計画並びに収支予算案承認の件
6. 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (1) 議長選出の件、互選により城所ひとみ氏が議長に選出された。
 - (2) 議事録署名人選出の件、議事録署名人として早川とし子氏および山村都氏が選出された。
 - (3) 役員の件、運営委員共同代表山村都氏および早川とし子氏は理事就任、理事茂木英治氏任期満了により理事退任しました。
 - (4) 2015(平成27)年度事業報告並びに収支決算書承認の件(総会資料別紙2参照)
山田事務局長より配布済資料を基に、平成27年度の事業・収支決算報告がなされ、引き続き、伊澤監事より「会計監査の結果適正でした」(5月23日付け監査報告書受領済)との報告がされた。その後、全会一致で承認可決された。
 - (5) 2016(平成28)年度事業計画並びに収支予算案承認の件(総会資料別紙3参照)
山田事務局長より配布済資料を基に、平成28年度の事業計画並びに収支予算案(経常収支は正会員減少等により30万円の赤字予算となる)の説明がなされ、全会一致で承認可決された。

以上

第10回 かもめ朗読会



「第10回かもめ朗読会」は、2016年3月12日(土) 港区高輪区民ホールで開催しました。この朗読会は、日頃の訪問朗読ボランティア活動を皆様にご報告するため、かもめ会員自らが、企画・演出・照明・音響・出演等を担当し、作り上げた朗読会です。構成は、第1部と第2部から成り、第1部は、朗読ボランティア実演編です。

“みんなきいて!”の読み聞かせから始まり、次は“のはらうた”です。工藤直子の「のはらうた」をベースに作成された12ヶ月のカレンダーに沿い、総勢12名が3本のマイクの前に立ち、それぞれの個性で、動植物(さる・とら・うし・からす・どじょう・あげは・ほたる・すぎ・もみじ等)の気持ちを思い切り表現しました。「どじょっこれん」の「びんぴこおどり」では、歌もでて、会場もすっかりのはらうたの世界に浸りました。

“ほんねはね”は、訪問施設でも大人気の川柳(サラリーマン・シルバー・婚活川柳)です。施設では、川柳コーナーを設け、利用者の方々に読んでいただき、川柳のもつ可笑しさを皆さんで楽しみます。

今回、こちらが思わず笑ってしまった句、共感できる句を集めました。どの句も秀逸で選ぶのが大変でした。また、川柳の作者の気持ちや状況を理解してもらえるよう、読み方も工夫しました。一句読むごとに会場から笑いが起こり、楽しい雰囲気になりました。

次は、“じつはね”の「エンマ大王の大しくじり」。7名の出演者の熱演で、難しい滑舌の会話も難なく克服し、無事、陽気な

地獄やぶりもできました。

“祭りだワッショイ”は、出演者とお客様がリズムや言葉を繋ぎ合わせて、会場全体で楽しむというものです。一人でも多く揃っての全体練習が出来ないと成果が上がりません。また、当日出演者とお客様とがぴったり息が合うとも限りませんが、逆に何かが起こるワクワク感もあります。松島邦氏が白秋の詩を書替えた“祭りだワッショイ”で、会場ににぎやかな「うねり」が起こりました。

第2部は、“心に響く朗読”をテーマに、「寸劇」「一つ身の着物」「まわり道」「信太妻」の作品を4名の方が熱演し、あつという間の各15分の朗読でした。

最期に、「糸」(中島みゆき作)をお客様と一緒に歌い、お客様との一体感とかもめ会員の達成感に充実した雰囲気でした。

ご来場いただいた皆様、朗読会を盛り立てて下さった皆様、皆様のご協力のもと“第10回かもめ朗読会”が成功裡に締めくくられましたことを、共に喜び、心から感謝申し上げます。

(かもめ代表 菊地崇之)



掲示板 会員の朗読会と活動情報(2016.8~2016.12)

日時	公演名	場所	出演者名
8月26日	8月お昼休みコンサート	千葉・大里管理ホール	吉田周子
8月30日	ヒルズサロン朗読会21	六本木ハリウッドビューティープラザ4F	河崎早春・永井喜代子
9月03日	朗読とSPレコードで奏でる芥川龍之介の世界	古河文学館	青木ひろこ
9月04日	お話し会「絵本でおさんぽ」(以後毎月第一日曜日)	紀伊國屋書店新宿本店	赤間立枝
9月15日	第12回公演語りの会「ぼてふり」	深川江戸資料館小劇場	内藤和美
9月16日	「記事を声に出して読む」「加賀美版心を動かす詩」	徳島新聞社	岩瀬弥永子
9月17日	フルムーン朗読夜会(10/16・11/14・12/14)	せんげん台・Petit Salon d'J	宮尾壽里子
9月19日	マリンパと朗読を楽しむコンサート	くにたち市民芸術小ホールスタジオ	前尾津也子
9月22日	大人も子供も楽しめる「朗読&音楽ライブ」	EL TRES さくらてらす五反田	久木崎なお江・前尾津也子
9月24日	八重洲朗読会98	八重洲ブックセンター本店8F	稲本由美子・岩瀬弥永子・白田敦子・田中邦子
9月24日	第65回 ハートストリングス 語りと朗読の会	ハートストリングス	内藤和美
9月24日	邦楽への誘い〜月に寄せて〜	秋田市アトリオン音楽ホール	塩田睦子
9月25日	木の実朗読会 Vol.10	栃木県総合文化センター	青木ひろこ
9月27日	よみかたる すずし	ロイヤルパークホテル・4F琥珀	柴田純子
9月30日	9月お昼休みコンサート	千葉・大里管理ホール	吉田周子
10月01日	第3回 筑波朗読館	つくば市立ノバホール・小ホール	内藤和美
10月08日	「月と風」	京都・高台寺	飯島晶子
10月08日	徳島城内屋外小屋掛公演「日本昔話」	徳島城内屋外小屋	岩瀬弥永子
10月08日	HIROの語り×音楽「二人の稚児」「刺青」	横浜・山手ゲーテ座	加藤敬子
10月12日	明治時代の文豪「100年目の夏目漱石」	さくら市・京源	青木ひろこ
10月16日	シニアの朗読ワークショップ	葛飾区立中央図書館	柴田純子
10月20日	秋の朗読会	錦糸町駅ビル・テルミナ6階	永井喜代子
10月24日	いきものがたりVII〜姫〜	新橋・アトムCSタワー	稲本由美子
11月03日	リーディングカフェVol.19 ライアーの音楽と共に	宇都宮アルプスの森・京屋茶舗	青木ひろこ
11月07日	ほのぼの朗読会 in原宿	原宿・ハーモニー東京センター	浅霧ひとみ
11月10日	東日本大震災復興支援公演 宮沢賢治生誕120周年	せんがわ劇場	内藤和美
11月13日	第6回朗読の会「樂(だんらん)」	王子・北とびあスカイホール	辰巳千和子・田中邦子・吉川京美
11月16日	第18回オリブ朗読会	山武文化会館ホール	古内恵美子
11月22日	ぶれさんぼうず 秋公演	千代田区立内幸町ホール	内藤和美
11月23日	男女共同参画イベント「伝えたい事・絵本・近代詩を読む」	徳島文化センター	岩瀬弥永子
11月23日	SYUGORO READINGS	東武宇都宮百貨店「スパイスホール」	青木ひろこ
11月28日	ものがたり図絵・そのVII	紀尾井町サロンホール	渡部玲子
11月29日	初冬のひととき「岩崎加根子&和三凡」	千代田区立内幸町ホール	坂本有子・本間恵子・宮崎弥生
11月30日	ヒルズサロン朗読会22	六本木ハリウッドビューティープラザ4F	
11月30日	ティータイム朗読会6	原宿・アコスタジオ	河崎早春朗読教室有志
11月30日	第14回朗読会「南風東風」	千代田区立内幸町ホール	津田千代子
11月30日	八幡山洋館「語りの会」	平塚八幡山洋館	加藤敬子
12月03日	朗読劇「口紅のとき」	せんだいメディアテーク スタジオシアター	長野淳子
12月23日	柏朗読会	柏そごう11階	永井喜代子
12月24日	「馬頭琴とコラボ」「クリスマス朗読」	阿波観光ホテル	岩瀬弥永子

事務局からのお知らせ

☆寄附(ご協力ありがとうございました)

「朗読の日2016」会場におきまして、岡田雅之様(新潮社)からご寄附頂きました。また、ご来場のお客様から被災地支援として71,610円の義援金をお預かりしました。

☆朗読アラカルト出演者募集

9月2日に出演者募集のお知らせをお送りする予定です。詳細は同封のチラシをご覧ください。

☆八重洲朗読会登録審査

八重洲朗読会への登録をご希望の方は9月末までに事務局にお申込み下さい。

☆会員情報

(2016年6月新入会員・敬称略) 大橋敬子

☆「ボランティアグループかもめ」新入会(敬称略)

伊吹よし子・岩井郁子・関谷和江・藤麗加

編集後記

今号からデザインも刷新し、「朗読ニュース」メンバーの気持ちも新たに、再出発の夏号となります。アイデアを出し合い、限られた紙面で興味を持っていただける記事や情報をお届けできるよう取り組んでまいります。皆様からのご提案等も大歓迎です。事務局宛(mailto:npo-rodoku@rodoku.org 件名:「朗読ニュース」お知恵拝借箱)に、メールでお送りください。

(吉松克子、早川とし子、川口和代、菊池崇之、柳瀬孝子)

雑学

「夏日」と「真夏日」と「猛暑日」の違いは?

日中の最高気温が25度以上を「夏日」、30度以上を「真夏日」、そして35度以上を「猛暑日」という。近年、気象予報士が「猛暑日」と言うことが多くなったのをお気づきの方も多いと思う。また、夜の最低気温25度以上を「熱帯夜」という。こまめな水分補給と休息で、熱中症には充分気をつけましょう。